

西要寺だより

第98号 令和2年9月20日

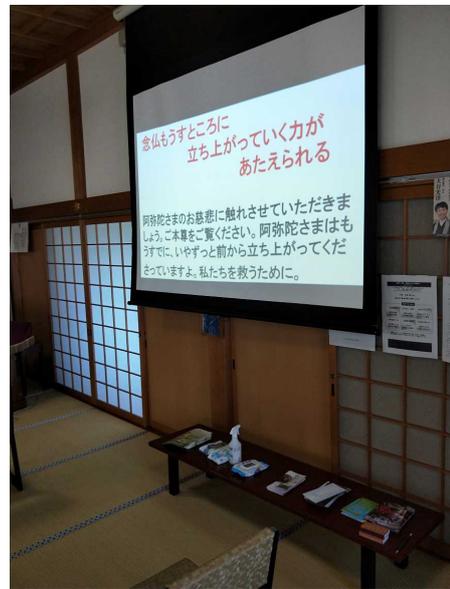
●孟蘭盆会法要をお勤めしました

例年の孟蘭盆会法要は、13日・14日・15日まで3日間お勤めしていますが、今年はコロナのこともあり、12日（水）・13日（木）・14日（金）・15日（土）の4日間（午前11時より）お勤めしました。7月下旬頃より、新型コロナウイルス感染者の数が再び増加してきました。参詣者の方にはマスクを着用していただき、本堂出入り口に設置した消毒液を使用していただき、堂内の換気を定期的に行うことをしました。また、毎日、除菌シートで椅子や出入り口の戸などを拭くなど、出来るだけの感染防止対策をしました。とはいうものの、ご門徒の皆様と一緒にお勤めすることはできない、と判断し、急遽、お焼香のみのご参詣とさせていただきますことにしました。



しかしながら、お焼香のみというのでは法要らしくないのではないかと感じて、急遽、動画を作成しました。

その動画は、10分程度で、例年、住職や前住職が話をするような内容のものです（右の写真はその動画の一部です）。動画を、まず法要の始まる前に流しました。ある程度、参詣の門徒さんがお集りになられたら、（密を避けるため）午前11時前であっても読経を初めて、その間にお焼香をしていただきました。



読経が終われば、もう一度、動画を流しました。すでに法要前に見られた方、また帰りを急がれる方はお帰りくださいとアナウンスしました。

お焼香だけのご参拝とご案内してましたが、ほとんどの参詣の門徒さ

んは動画も見ていただきました。

本当に猛暑のなか、またコロナのことが気になるなか、ご参詣いただき、ありがとうございました。

●お布施について

・布施とは

法事や葬儀などの時に、「いくらお布施を包んだらいいのでしょうか？」と聞かれることがあります。それに対して私は「額は言えません」と答えます。



「そんな遠慮しないで、ざっくばらんと言って下さい」と重ねて言われることがあります。私は遠慮して金額を言わないではありません。お布施というのは、お経に対する報酬ではないので、そもそも料金設定することはあり得ないのです。

それでは「布施」って何でしょうか。浄土真宗本願寺派総合研究所副所長満井秀城先生が築地本願寺新報「TSUKIJI」に書かれた内容を抜粋・要約しながら説明していきます。

まず「布施」というのは、モノに対する執（とら）われの心を離れる行という仏教の修行項目の一つなのです。つまり、「布施」とは、「出来得るありったけを、執（とら）われの心なしで施すこと」です。

更に「布施」は、三輪清浄（さんりんしょうじょう）でなければなりません。まず、「三輪」とは、「施す者」・「施しを受ける者」・「施しの中身」の三つで、これらが執着がなく、清浄（しょうじょう 清らか）でなくてはなりません。「施す側」については、「これだけしてあげた」という執着があってはなりませんし、「受ける側」では「たったこれだけか」という思いが起こると清浄になりません。

また、受け渡しの対象物が、犯罪や汚職に関わった物だと清浄になりません。この観点からも、

「お布施」の額を問題にするのは、かえって執着を生むということです。

蛇足ですが、近年「ふるさと納税」の返礼品が話題になっています。本来、純粋な寄付行為であるはずなのに、返礼品が豪華な自治体に「納



税」が集中するのは、豪華な返礼品を求める「不清浄」な下心があるかもしれません。

また「布施」というのは、門徒さんだけの行為ではなく、僧侶側からは「法施」という布施を行います。法事や葬儀などの際に、お経をお勤めし、仏教の話をしていくことが「法施」、つまり、他の人に法を伝えるという布施です。



それに対して、門徒さんの行っていた

だけ布施を「財施」と言います。しかしながら、「法施」に対して「財施」というのではなく、それぞれ別々の布施行です。

・ 懇志について

「布施」のほかに「懇志（こんし）」という言葉があります。西叡寺では永代経法要や報恩講法要の時に、懇志袋を用意させてもらっています。「お包みする袋の表に何と書けばいいのでしょうか」と困られる門徒さんが多かったので、懇志袋を用意しています。その「懇志」とは、もともとは「志」、つまり「気持ち」の意味です。御礼や感謝の気持ちの表現形態です。「尊く懇（ねんご）ろなお志」として「懇志」と称します。

・ 僧侶も納税？

ついでにいいますと…「お坊さんは税金を払わなくていいのか」ということを思っておられないですか？ 確かに、寺院という宗教法人は非課税ですが、寺院に所属する住職は、宗教法人からいただく給与に課税義務を負っています。「お布施」や「懇志」は、まず宗教法人に入るのであって、直接住職個人に入るものではありません。

・ まとめ

「お布施」の額を言えないという理由がわかっていただけたでしょうか？ お布施の額（目安）につきまして、地方（田舎）と都会とでは異なることが多く、このあたりだと葬儀の時に葬儀業者の方が一応の目安を言って下さいます。しかしながら、その目安の額に執（とら）われることは決してありません。お布施とはもともと「出来得るありったけ」ですが、無理のないようにお願いします。もちろん、お気持ちの上乗せ

は有り難いですが…。

葬儀の場合は葬儀業者の方に聞けばいいということですが、法事の場合はどうすればいいのでしょうか、と言われます。最近は便利なものがあります。インターネットです。検索すると、目安が出てくるようです。

しかしながら、仏事に関することすべてをインターネットだけに頼るのではなく、私たちにも相談していただきたいこともありますこと、一言添えておきます。

●住職の今年度の予定（報告）

今年4月から、毎週金曜日に龍谷大学（瀬田）の講義を担当しております。午前11時から12時の講義です。後期（9月以降）も、前期（4月～7月）の講義と同様に、コロナウイルスの影響でインターネットを介してのオンライン講義になりました。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】9月 中止

※お彼岸のお参りを希望される方は、ご自宅までお参りに伺いますのでお気軽にお申し出下さい。

【報恩講法要】

10月23日（金）～24日（土）

午後2時より午後4時頃まで

講師：利井 唯明 師（本願寺派布教使、高槻 常見寺 住職）

場所：西要寺本堂（椅子席）

※周辺の新型コロナウイルス感染の状況により法要の時間を短縮させていただくことも考えております。最悪の場合は急遽、中止・延期させていただく可能性もあります。今後の状況を見通せないということをご理解いただきたく存じます。

●なお、開催の有無等の詳しいことについては、西要寺ホームページ、西要寺の南と北の掲示板などでお知らせします。なお、直接、西要寺まで問い合わせいただいても構いません。11月以降の法要の予定につきましても同様です。